

研究背景と目的

**背景:** 古墳時代須恵器の研究では、技術的な中心—周辺関係を通じて、陶器窯跡群の役割が各地へ主導的に拡散されたことが指摘されている(e.g., 田辺1981; 中村1981; 菱田2004)。この技術伝播の過程には、王権による積極的な関与や奉仕が背景にあったという(e.g., 和田2003; 菱田2007)。

一方、地方では陶器窯跡群で生産されない製品も存在し、一方向的な技術伝播だけではなく、より複雑な文化交流の実態を示している(e.g., 長2013; 藤野2019)。しかしながら、これら地方独自の製品に対する十分な検討が行われていない。

**目的:** 本研究では、古墳時代の地方独自の製品である皮袋形瓶(図1)を再集成し、その資料を基に地域間交流の実態を検討する。

資料と方法

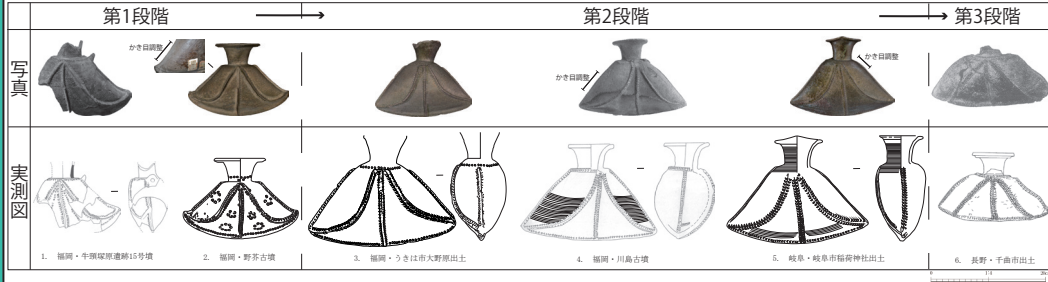
**資料:** 82遺跡から発掘された87点の皮袋形瓶と、出土地が不明な15点の資料を対象とする。

**方法:** 資料の分析にあたり、発掘調査報告書に記載されている資料および一部未報告の資料を中心に、実見観察を行った。この観察結果をもとに、皮袋形瓶の型式分類した(図2)。

考察

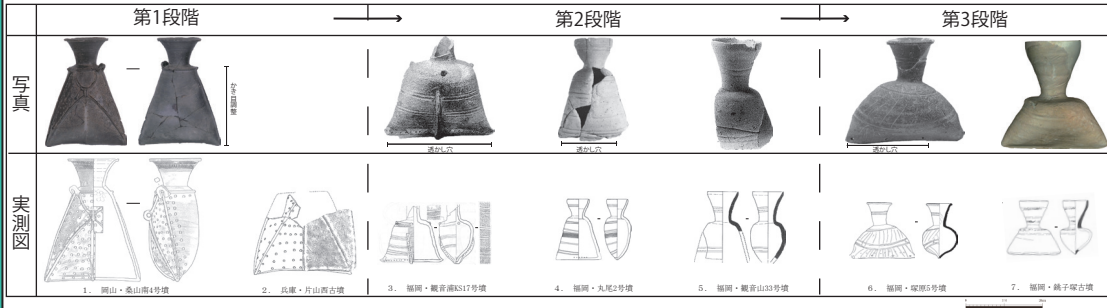
扇形系統

全体形状は扇形で、底部形状は外弧状1類→外弧状2類に変遷、胴部形態はA類、突帯形状はa類→b類に変遷  
**かき目調整を有するのは野芥古墳(裏面)、川島古墳、稲荷神社出土品である。**



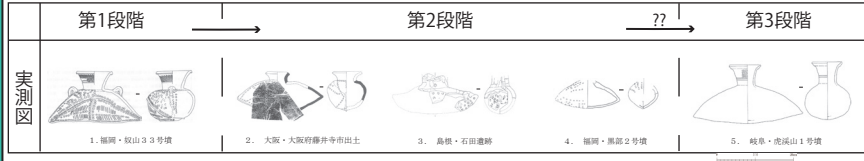
長筒形系統

全体形状は長筒形、底部形状は直線的、胴部形態はC類(全体に不規則な文様を施すもの)→D類(竹管文と刺突文がないもの)  
**透かし穴を有するのは観音浦K S 1 7号墳、丸尾2号墳、塚原5号墳である**



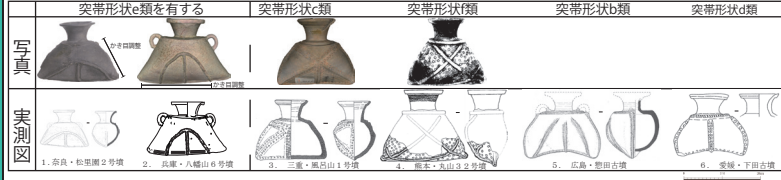
紡錘形系統

全体形状は紡錘形、胴部形態はC類→D類に変遷  
**突帯形状e類を有するのは奴山33号墳である。**



台形系統

全体形状は台形、形態多様である。



結論

図3に示された**扇形系統**の皮袋形瓶は、福岡県を中心に岐阜県や長野県へと技術が展開したことが確認され、この過程で製作技術の簡略化が見られる。

**長筒形系統**について、現状では、岡山県の桑山南4号墳を初現とし、兵庫県や和歌山県にも類似の資料が出土しており、技術の流れは最終的に福岡県へと至る。特に福岡県では、皮袋形瓶の底部に透かし穴を持つ事例が見つかり、これは地域によって実用よりも装飾性・象徴性が重視されたと考えられる(陳2024)。

**紡錘形系統**については、出土遺跡の状況や相対年代が明確でないため、技術展開については現時点で不確定である。

**台形系統**は、突帯形状の多様性が特徴であり、奈良県の松室園2号墳と兵庫県の八幡山6号墳の皮袋形瓶で、突帯形状e類と把手、かき目調整が共通していることが確認された。これらはMT15型式期に相当し、一定の技術共有があったことが示されている。

また、福岡県の奴山33号墳からも同じ突帯形状e類が見つかり、系統間の技術交流があった可能性が示唆されている。

今後の展開

- ①自然科学および情報科学と連携し、上記の方法で示された同系統の皮袋形瓶について、胎土分析および内部構造の非破壊分析を行い、より客観的に検証する必要がある。
- ②当該期における他の地方独自の器(角杯、特殊扁壺、三足壺、環状瓶など)の分布とその関係性を総合的に検討する。

**注:** 皮袋形瓶の分布と出土遺跡に注目した分析は陳(2024)を参照されたい。

**参考文献:** 田辺昭三、1981『須恵器大成』角川書店、中村浩、1981『須恵器生産の諸段階—地方窯立に関する一試行—』『考古学雑誌』第67巻第1号、日本考古学会、pp.37-55頁。菱田哲郎、2004『古墳時代中・後期の手工業生産と王権』『文化の多様性と比較考古学』考古学研究会50周年記念論文集、考古学研究会、pp.57-66頁。和田晴吉、2003『古墳時代の生業と社会—古墳の秩序と生産・流通システム—』『考古学雑誌』第50巻第3号、考古学研究会、pp.43-55頁。菱田哲郎、2007『古代日本国家形成の考古学』京都大学学術出版会。

長直信、2013『須恵器からみた地域間交流—豊前・豊後地域を対象に—』『古墳時代の地域間交流1』九州前方後円墳研究会、pp.99-129頁。藤野之、2019『古墳時代の須恵器と地域社会』六書房。陳永強、2024『日本列島における皮袋形瓶の分布と様相』『名古屋大学文学部』第7巻、名古屋大学大学院人文科学研究科、pp.17-32頁。

**謝辞:** ポスターの作成にあたり、梶原義典先生と中川朋美先生に終始丁寧なご指導を頂きました。下記の機関にも資料提示に際しては、貴重なご意見ご教授を頂きました。末筆ながら記して感謝申し上げます。(敬称略 写真順)  
大野城市教育委員会、神宮嶺古墳、九州歴史資料館、飯塚市教育委員会、愛知県陶磁美術館、長野県歴史博物館、津山弥生の里文化財センター、宇美町役場、福岡市教育委員会、那珂川市教育委員会、春日市教育委員会、久留米教育委員会、上牧町教育委員会、香美町教育委員会、熊本県教育委員会

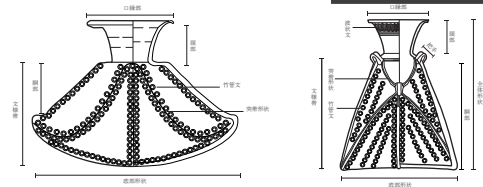


図1 扇形と長筒形の部位名称

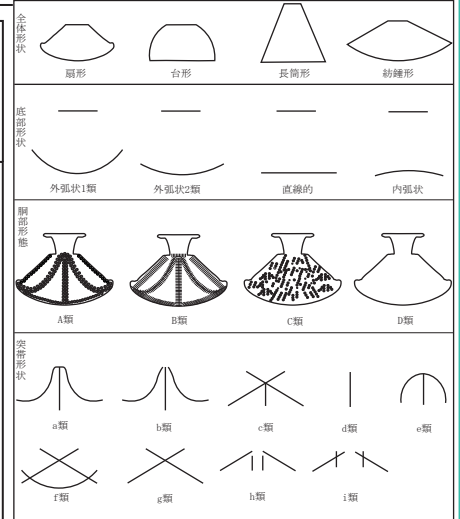


図2 型式分類

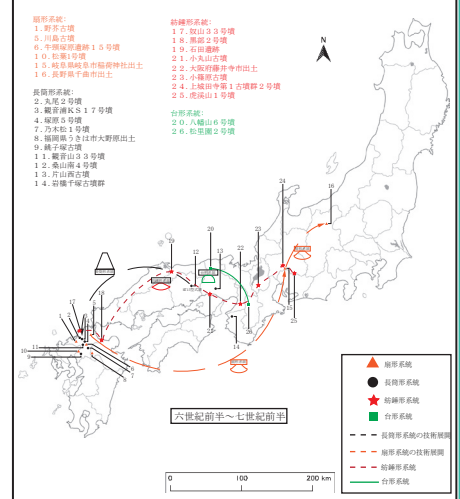


図3 皮袋形瓶の技術展開